

理科部門

☆総評☆

今年も、身近なものから社会問題になっているものまで、幅広いテーマで作品が寄せられました。特に異常気象、地震、恐竜など社会的に話題を呼んだものについて、研究が目立ちましたが、いずれも資料集めや参考図書の写しに終わったりと、研究として消化されていないものが多かったのは残念です。テーマや人の意見にとらわれず、自分の興味や疑問、予想を中心にして必要な実験・観察を考え、実行してみてください。君にしかできないすばらしい研究になるはずです。そんな、自分自身から始まる自由な研究が多く寄せられることを期待します。

文部大臣奨励賞

「生活の中に入ってくる虫、害虫と嫌われる虫」

害虫と嫌われる虫

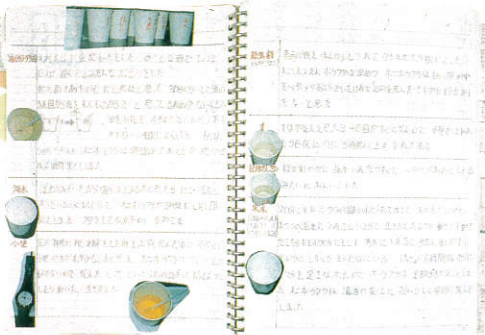
神奈川県茅ヶ崎市立浜須賀小学校

五年 守屋 昂

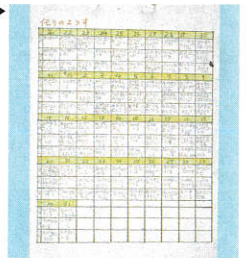


だれもが持っている害虫、益虫というあいまいなイメージをいったん捨て、身近な虫たちについて自分なりの方法で調べ、自分自身の意見をしっかりと述べています。そのユニークで多様な実験・観察や、十種類以上におよぶ虫などの研究に対する努力もさることながら、身近な虫たちに寄せるあたたかい目が、この作品をよりすばらしいものにしてと言えましょう。

昨年、友達と行ったギブリの研究から発展して、身近な虫の中で、嫌われているもの、害虫と言われているものを中心に、その生活や、人間とのかかわりを調べています。例えばボウフラについては、油や海水、洗剤溶液などを用意して環境の悪化に対する強さを調べ、体がかんそうしなければ、空気中でも死なないことも確かめています。そういった実験・観察に加え、アンケートでどんな虫が嫌われているかを調べ、人間が嫌うのは必ずしも人間にとって害があるからとは限らず、見た目が悪いという理由も多いことを確かめました。虫それぞれの役割や環境への影響を考えて、「人間の勝手な論理でむやみに虫を殺さないようにしよう」という意見で、最後を結んでいます。

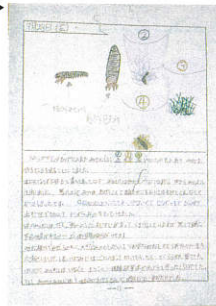


優秀賞



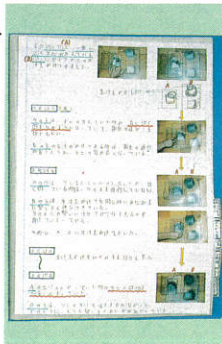
「イモリが知らせる天気予報」神奈川県茅ヶ崎市立西浜小6年 佐藤智子

家で飼っているイモリの様子をヒントに、イモリと天気の関係性を調べたユニークな研究です。夏休みの間毎日、天気・気温・水温・湿度を調べて、イモリの様子と比較するのは大変なことだったでしょう。ただ、気温・水温・湿度が、研究結果の中に反映されていないのが少し残念です。



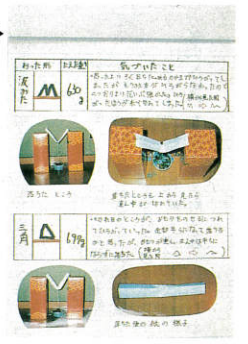
「みのむしの観察」岐阜県岐阜市立長良西小4年 所 裕高

「みのむしのみのものの中にはどんな虫がいるのかな？」という疑問から出発して、みのの作り方、卵、成虫まで、楽しく上手にまとめています。身近な素材をテーマにして、自分自身の疑問や研究目標について、一つ一ついいねに調べ上げた秀作です。



「ドクダミの研究」岐阜県柳津町立柳津小6年 坂井田裕子

紙の折り方によって強さがどのように違うかを調べた研究です。同じ折り方で紙の種類を変える、紙のおき方を変えるなど、自分なりの工夫があつて、とてもしっかりした研究です。また、折りにふれてご両親やご兄弟の援助があり、ご家族の方のあたたかさが伝わってくるようです。



「紙の強さ調べ」福井県清水町立清水南小4年 河村昌明

その他の受賞作品

◆優良賞「おしぎ草」(東京学芸大学附属小金井小四年 西谷拓磨) 「飛行機をもつとよくとばすには」(瑞浪市立瑞浪小四年 鈴木浩史) 「ひょうたんの水のすい上げ方」(平塚市立みずほ小五年 梶山靖子) 「続へちま」とひょうたん(柳津町立柳津小五年) 安田勝詞 「表面張力の強さ」(瑞浪市立瑞浪小六年) 松井祐己 ◆佳作 「水ぼうそう」(津区立白金小四年) 木村秀彬 「雨の量と形」(板取村立板取小四年) 長屋宏香 「人の体・脈と体温の変化」(岐阜市立長良西小四年) 浜田有佳子 「たまごの実験」(岐阜市立長良西小四年) 中山岳 「根はどこから出るのさ？」(岐阜市立長良西小四年) 松尾佳奈 「ビル風」(愛知教育大学附属岡崎小五年) 本多央典 「台風の研究」(柳津町立柳津小五年) 奥村佳世 「理科 学習指導案」(聖徳学園小六年) 高橋奏吾 「水の汚れの研究」(岐阜市立黒野小六年) 中川啓太 「レモンの不思議」(国学院大学附属久我山中三年) 小宮由香里

石垣の割れ目や道ぎわなど、あまり植物の育たないところで力強く生きているドクダミについて、生態から薬効まで様々な研究をしています。多方向にわたる研究にもかかわらず、研究計画や方法、結果などが分かりやすくまとめられています。ぜひお手本にしてもいいところですね。